

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第109号

令和2年5月12日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

全国から正行論文の応募、お待ちしております

楠正虎の父の書状、兵庫特別展で公開

＝ 川崎市に、楠氏の目印としたタブノキ残る ＝

● 正行論文、5/31 締め切り迫る ●

コロナウイルス感染の影響を受け、四條畷楠正行の会の例会は開けず、各種イベント等もすべて自粛となり、不要不急な外出を避け、家に閉じこもる日々が続いています。

しかし、四條畷市市制施行50周年記念協力事業「楠正行論文募集！」事業は、予定通り5月31日（必着）締め切りで継続しています。4月21日、応募第一作が届きました。

[YouTubeに案内動画公開](#)

なわてほっとムービー・正行論文募集へ

4月6日（月）、桜咲くグリーンホール田原の一角で、論文募集の案内動画を撮影していただき、このほど、四條畷市から公開されました。

四條畷市の西垣内マーケティング監のインタビューを受ける形で、扇谷が「楠正行23年の生涯」「正行が多くの人に愛される人物像」「正行没後約700年、正行が今に伝えること」「楠正行論文募集の内容説明」を語っています。

ネットからの視聴方法は、「YouTube」から入り、四條畷市公式動画チャンネル「なわてほっとムービー」大阪府の「楠正行論文募集」にアクセスしてください。

たくさんのご応募お待ちしております。



● 大饗道意（楠正虎の父）の書状 ●

神戸市在住の楠正暢さんからお手紙をいただきました。

「我が家は楠正虎からの流れの家であり、正成からは私で23代目となっています。扇谷様の言われるとおり、正成からの血のつながりが本当にあるのかという点で、家系図の正儀から正虎までの内容が薄く、私自身も少し不信に思っておりました。」

なお、楠正暢さんの家は、正成以降、大饗→楠→櫛村→楠と苗字が変わっています。



● 兵庫県立歴史博物館特別展で公開 ●

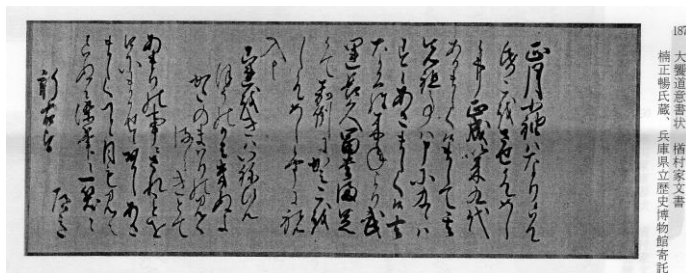
そして、兵庫県立歴史博物館で、平成29年（2017）10月7日から11月26日まで開催された特別展「ひょうごと秀吉—近年の新紹介資料を交えて—」に同氏所蔵資料数点が展示され、その中の一つ、大饗から楠を名乗った楠正虎の父である大饗道意の文書に「楠の家が繁栄するのは正成以降の久々である旨」が書かれており、手紙は、“そこです思いますことは、何らかの血縁はあったのではないかと推測しております。正虎が書いたものであれば怪しいかもしれませんが、その父が血縁がなければこのような書を書く

ものか?と思ったりしています。”と続き、書状等の写し、解説文(兵庫県立歴史博物館作成)を送っていただきました。書状・解説文は以下の通りです。

書状

■大饗道意書状 櫛村家文書

(楠正暢氏蔵、兵庫県立歴史博物館委託)



157 大饗道意書状 櫛村家文書
楠正暢氏蔵、兵庫県立歴史博物館委託

解説文

■大饗道意書状 櫛村家文書

(戦国時代) 一通

紙本墨書 切紙 15.1×40.7

楠正暢氏蔵、兵庫県立歴史博物館委託

正虎の父道意が正虎の弟に宛てたとみられる書状。あるいは写しの可能性もある。大意は次の通り。

正月の小袖を紙子(紙で作った服)で着ることは先祖の楠木正成以来なかったことである。しかしながら、来年から武運長久、富貴満足となる嘉例として、紙子を着るのはよいことだ。

この紙子を着れば、貧乏の神も去ってくれ、肩の周りが見苦しいから

あまりのうれしさについ戯れ言を言ってしまった。目も不自由なのに手紙を書いてしまった、笑ってくれ。

といったものである。おそらく正虎の仕官が成功して、家が豊かになってきたことを喜ぶ書状ではないかと判断される。正月に紙の服を着るのは今までなかったことだがこれから家が反映(繁栄か:扇谷)していく嘉例となるのであればよしとしつつ、紙子と貧乏の神とを掛けた狂歌まで書き添えている。よほどうれしかったのであろう。戦国時代の家族間での気の置けないやりとりといえるが、こうしたやりとりが残っていること自体珍しいものといえる。

正月小袖はなり候はて、

紙子をさせ候てめし

候事、正成以来及第

あるましく候、まして其

先祖事ハ申に及候ハ

す候、あさましく候、去

なから来年より武

運長久、富貴満足

候て、嘉例に、かみこを

し候てめし候やうに祝

入申候、

これをきハ、いねひん

ほうのかみきぬよ、

かたのまはりのみく

るしきとて、

あまりの事ニ、されことを
口にまかせ候、おかしあさ
ましくて候、目も見え候
はぬニ染筆候、一笑い、

道意

新右まいる

● 川崎市まちの木の本一本は楠氏ゆかりの木 ●

楠正暢さんからのお手紙には、川崎市まちの木の一本、タブノキの説明板の写真が同封されており、川崎市麻生区千代ヶ丘9丁目所在のタブノキは楠氏ゆかりの木であることが、以下の通り書かれています。 ↓川崎市まちの木より

この木は樹齢800年ともいわれており、所有者の先祖・楠木正成の一族が足利幕府に追われ移り住んだとされる約500年前には、この場所にあったとのこと。

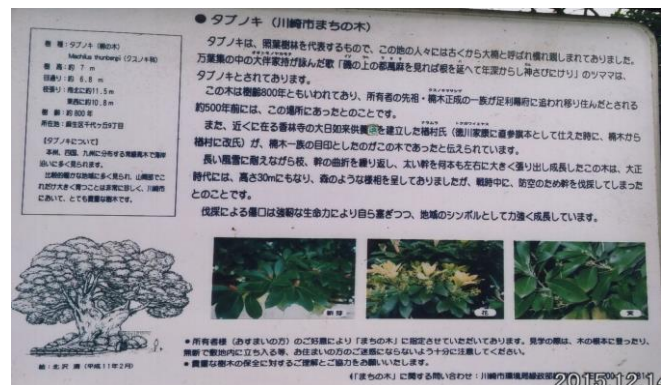


また、近くにある香林寺の大日如来供養塔を建立した櫛村氏(徳川家康に直参旗本として仕えた時に、楠木から櫛村に改氏)が、楠木一族の目印としたのがこの木であったと伝えられています。

長い風雪に耐えながら枝、幹の曲折を繰り返し、太い幹を何本も左右に大きく張り出し成長したこの木は、大正時代には、高さ30メートルにもなり、森のような様相を呈しておりましたが、戦時中に、防空のため幹を伐採してしまったということです。

伐採による傷口は強靱な生命力により自ら塞ぎつつ、地域のシンボルとして力強く成長しています。

なお、楠正暢さんによると、この木の敷地に住まれている楠の一族である和田さんとはかつて血縁関係があり、今も交流があるとのこと。



↑タブノキの説明板(送っていただいた写真・転載)

- *樹種 タブノキ
- *樹高 約7メートル
- *目通り 約6.8メートル
- *樹齢 約800年
- *所在地 川崎市麻生区千代ヶ丘9丁目

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)